

それぞれの歴史、伝統、文化は  
新しい学びやで一つになる

# 門崎小学校

地域の特色を創作劇「ゆりのき物語」で発信  
最後の上演で閉校に花を添える



1



2



3

1)開校から閉校までの思い出を振り返った「お別れの言葉」/2)「ゆりのき物語ヒストリア」のフィナーレ。オリジナル曲「ゆめをうたおう」の大合唱に会場から大きな拍手が送られた/3)約300人が出席した閉校式。全員で校歌を斉唱した/4)神輿の登場で「ゆりのき物語ヒストリア」はクライマックスを迎える/5)校内に展示された写真に昔を懐かしむ卒業生



4



5

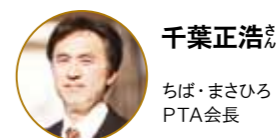


■校長 佐藤毅  
■児童数 61人  
■所在地 門崎字宮畑5  
■創立 1873(明治6)年



**千葉勝雄**  
ちば・かつお  
閉校式記念事業副  
実行委員長

「ゆりのき物語」は私がPTA会長を務めていたときにできたもの。閉校記念事業として取り組んだ「ヒストリア」で、24年間演じられてきた創作劇が生まれたきっかけを多くの人に知ってもらうことができました。



**千葉正浩**  
ちば・まさひろ  
PTA会長

門崎小学校は、これまで幾多の水害に耐え、門崎地域の中核として歴史と伝統を築いてきました。これまでの輝かしい伝統を引き継いで、川崎小学校でも新しい歴史を刻んでいってほしいです。



**那須野かこ**  
なすの・かこ  
児童会長

門崎小学校で私が好きな場所は体育館です。大好きなバスケを友達と一緒にやりました。つらい思い出、悲しい思い出、うれしい思い出を作ってくれた6年間。この学校と共に過ごせたことを絶対忘れません。



**佐藤毅**  
さとう・たけし  
第35代校長

地域の皆さんが門崎小学校を思う強い気持ちは、「どの子ども大切な門崎の子供」として接する献身的な支援があったからだと思っています。子供たちは、その皆さんの姿・精神を学び、引き継ぎ成長していきます。

2013年3月、達古袋、摺沢、渋民、曾慶、薄衣、門崎の6小学校が閉校した。いずれも約140年の長い歴史を重ねてきた伝統ある小学校だ。

各校の閉校式には、児童、教職員、関係者だけでなく、卒業生や地域住民も多数出席した。校旗が返納され、校歌が斉唱されると、会場ではすすり泣く姿もみられた。どれだけ地域に愛されてきたかは、涙を流した人の数が物語っている。

自分が通った学校がなくなるといふことは、本当に悲しいことだ。自分の歴史の一部が消されてしまうよ

うな感覚でもある。子供たちはもとより、長い間、学校と関わってきた地域の人たちにとっても、本当につらいことかもしれない。

明治以来、学校は、地域でもっとも環境の良い場所に造られてきた。単なる学びやとしてだけではなく、地域の文化、スポーツ、コミュニティの拠点としての役割も担ってきた。そのシンボルが失われるなら、せめて建物だけでも利用したい、という願うのは当然のことだ。

室根町の旧釘子小学校が「国際医療福祉専門学校一関校」に、大東町の旧京津畑小学校が「京津畑交流

館・山がっこ」へ生まれ変わったように、今、全国各地で廃校を利用する取り組みが行われている。人が集う場所、人と人をつなぐ場所として、その役割は、これからも続いていく。

4月から達古袋小学校は厳美小学校、摺沢、渋民、曾慶の3小学校は大東小学校、薄衣、門崎の両小学校は川崎小学校として新たなスタートを切った。約140年にわたり、学校と地域が一つになって築いてきた伝統や精神は、これからも受け継がれていく。新しい学びやで。  
(6月15日号「第2部開校に続く」)

【参考文献】達古袋小学校閉校記念誌「達古袋」▽摺沢小学校閉校記念誌「たまはり」▽渋民小学校閉校記念誌「明倫」▽曾慶小学校閉校記念誌「みかげの森」▽薄衣小学校閉校記念誌「いずみ」▽門崎小学校閉校記念誌「ゆりのき」